



2026 年 7 月 31 日

各 位

会 社 名 一 正 蒲 鉾 株 式 会 社
代表者名 代表取締役
社長執行役員 野 崎 正 博
(コード番号 2904 スタンダード市場)
問合せ先 取締役 常務執行役員 コーポレート
事業統括本部長 高 島 正 樹
(TEL 025 - 270 - 7111)

2026 年 6 月期通期連結業績予想の修正、通期個別業績見込み値と前事業年度実績値との差異、特別損失（のれん減損損失）の計上及び個別決算における営業外費用（貸倒引当金繰入額）の計上に関するお知らせ

当社は、2025 年 8 月 8 日に公表した 2026 年 6 月期（2025 年 7 月 1 日～2026 年 6 月 30 日）の通期連結業績予想を下記のとおり修正いたします。また、当社は個別業績予想を開示しておりませんが、前事業年度の実績値と比較して差異が生じる見込みとなりますので、通期個別業績予想を併せてお知らせいたします。

また、連結決算の特別損失にのれんの減損損失、個別決算の営業外費用に貸倒引当金を計上する見込みとなりましたので、お知らせいたします。

記

1. 通期連結業績予想数値の修正（2025 年 7 月 1 日～2026 年 6 月 30 日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想(A) (2025年8月8日)	百万円 36,200	百万円 1,100	百万円 1,150	百万円 750	円 銭 40.95
今回修正予想(B)	35,542	611	529	326	17.81
増減額(B－A)	△657	△488	△620	△423	－
増減率(%)	△1.8	△44.4	△54.0	△56.5	－
(ご参考) 前連結会計年度実績 (2025年6月期)	34,579	891	907	746	40.67

2. 通期個別業績見込み値と前事業年度実績値との差異（2025 年 7 月 1 日～2026 年 6 月 30 日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前事業年度実績値 (2025年6月期) (A)	百万円 34,152	百万円 794	百万円 810	百万円 565	円 銭 30.81
今回予想 (2026年6月期) (B)	35,067	594	121	△3	－
増減額(B－A)	914	△200	△689	△569	－
増減率(%)	2.7	△25.2	△85.0	－	－

3. 修正の理由

(連結)

売上高は、水産練製品・惣菜事業において、2025年3月の価格改定、スティックタイプのカニかまや保存性・利便性に優れた消費者ニーズに対応した商品は堅調に推移しました。一方、物価上昇が継続するなか、消費者の節約志向がより一層強まったことから計画を下回りました。きのこ事業においては、大容量パックの販売拡大、新規顧客の開拓及び在庫管理の徹底などにより、販売量及び販売単価は前年を上回りましたが、残暑が長期化したことで需要期が後ろ倒しとなった影響などから、計画を下回りました。

利益は、水産練製品・惣菜事業において、生産性の向上及び継続的なコスト削減に努めましたが、主原料のすり身及び卵など材料費や労務費が増加しました。また、きのこ事業においても、包装部門の合理化・省人化及び生産効率の向上によるコスト削減を進めましたが、原材料費・労務費の増加により計画を下回ることとなりました。さらに、のれんの減損損失を特別損失として計上する見込みであり、公表予想を下回る見込みとなったため、通期連結業績予想を修正いたします。

(個別)

連結業績予想の修正とほぼ同様の理由に加え、「4. 特別損失（のれんの減損損失）、営業外費用（貸倒引当金）」に記載のとおり営業外費用に貸倒引当金を計上する見込みです。

4. 特別損失（のれんの減損損失）、営業外費用（貸倒引当金）

当社が2024年12月に連結子会社化したPT. KLM ICHIMASA FOODS（現 PT. ICHIMASA KAIA FOODS）について、追加出資時に計上したのれんについて、直近の事業環境を踏まえ、のれん計上時の事業計画において想定していた利益水準を下回ることとなったことから、回収可能性を検討した結果、連結決算において特別損失としてののれんの減損損失約86百万円を計上する見込みとなりました。

また、同社に対する貸付金についても、回収可能性を検討した結果、個別決算において営業外費用として貸倒引当金繰入額約505百万円を計上する見込みとなりました。

なお、当該貸倒引当金繰入額は、連結決算において消去されるため、連結損益に与える影響はありません。

以 上